

次の半世紀へ、日本・サウジアラビア 戦略的パートナーシップの構築に向けて

イスラム世界の盟主として、また世界のエネルギー供給の担い手として、国際社会で比類ない存在感を示すサウジアラビア。日本とも関係の深い、その大国のスルタン・ビン・アブドゥルアジーズ皇太子が4月5日から3日間の日程で来日する。外交関係樹立50周年の記念行事の総仕上げとなる今回の訪問で、両国の絆が一層強まるのは間違いない。



アブドゥラー・ビン・アブドゥルアジーズ・アール・サウド国王陛下



KINGDOM OF SAUDI ARABIA

世界貿易機構(WTO)へ加盟 名実ともに自由市場経済へ

サウジアラビアは、その面積が日本の5.7倍にあたる215万平方km。世界最大の半島、アラビア半島の8割以上を占める広大な国土に、約2400万人が住む。イスラム教の二大聖地メッカとメディナを擁し、巡礼期には世界中から数百万人の善男善女がこの地を踏む。

宗教上の役割はもちろんだが、サウジアラビアの国際社会における重みは、やはり石油を抜きにしては語れない。世界最大の原油生産・輸出国であり、確認埋蔵量は2627億バレルと世界全体の23%を占める(2003年末)。石油輸出機構(OPEC)の主要メンバー国として、長年、石油の安定供給のため、強い指導力を発揮してきた。

油価の上昇を背景として、最近の国内経済は順調だ。国内総生産(GDP)の実質成長率はここ数年5%前後の高い数字を記録、今後もそのペースは続くと思われている。中東最大を誇る証券取引所での株式市場も空前の活況を呈している。

だが同時に、サウジアラビアの指導者たちは、時代の変化を読み取り、新たな課題の克服に向けた改革に挑んで。「脱石油依存」を目指した、外資活用による経済多角化がそれだ。2000年には新外国投資法を成立させ、

外国資本が100%出資する企業の設立に道を開いた。外資参入禁止分野を規定した「ネガティブ・リスト」の段階的解除と共に、税制優遇などの諸政策を進めている。

さらに、昨年12月には、各種補助金政策の見直しや、知的財産権関連法の整備に取り組んだ結果、念願の世界貿易機関(WTO)への加盟を実現。名実ともに自由市場経済立国として歩み出した。

改革は政治の分野にも及んでいる。サウジアラビアはサウド家が統治する立憲君主制国家だが、民主化政策の一環として、1992年に国政への助言機関「諮問評議会」を設置。また、昨年初めには、史上初めてとなる地方評議会選挙を実施し、内外の大きな関心を集めた。

アブドゥラー現国王は国民との対話に意欲的で、女性の権利拡大にも熱心に取り組んでいる。「ウルトラ保守王国」のイメージは、徐々にだが、確実に変わりつつある。

サウジ・日本国交樹立50周年 合弁事業も軌道に

日・サ関係の重要性は数字を見れば明らかだ。日本にとってサウジアラビアは、輸入原油の29%(2005年)をまかなう最大の原油供給国。サウジアラビアにとっても日本は2番目の貿易相手国だ。両国間の貿易総額は

2004年に約220億ドルに達し、互いが発展を支えあうパートナーであることを示している。

両国の外交関係樹立は1955年。国家レベルの協力がスタートしたのは、1975年の経済技術協力協定締結に遡る。その後、政府間の「日本・サウジアラビア合同委員会」や民間の「日本・サウジアラビア ビジネス・カウンシル」など定期的な会合を通じ、両国は交流を深めてきた。

1997年の橋本龍太郎首相(当時)の訪サの際には、「21世紀に向けた包括的パートナーシップ」を採択。翌年「日本・サウジアラビア協力アジェンダ」に調印した。こうしたイニシアチブを通じ、両国関係は人材開発、環境、保健、科学、文化・スポーツ、投資の多岐にわたる分野で目覚ましい進展を遂げている。

特に、数ある日・サの合弁事業は良好な両国関係の象徴だ。今年3月には、住友化学とサウジアラビア国営石油会社「サウジアラムコ社」が、紅海沿岸のラービグで総投資額98億ドルに及ぶ世界最大規模の原油精製・石油化学プラントの建設に着手。国家的大プロジェクトとして注目されている。

サウジアラビア皇太子来日 2国の協力関係を深化

サウジアラビアの皇太子が日本を訪れるのは、1998年のアブドゥル皇太子(現国王)以来、8年ぶりだ。



スルタン・ビン・アブドゥルアジーズ・アール・サウド皇太子殿下

スルタン皇太子は74歳。ファハド国王の死去により、昨年8月、皇太子に即位した。サウジ建国の祖であるアブドゥルアジーズ初代国王の子息で、ファハド国王を筆頭に聡明で知られる同腹の「ステイリ・セブン(7兄弟)」の一人だ。

豊かな教養を備え、首都リヤド州知事や運輸相、第二副首相など多くの要職を歴任した。現在は、副首相と1962年以来その職にある国防航空相も兼務しており、アブドゥラー現国王と共に、王国の舵取りを担っている。このほかにも、社会的弱者救済のための慈善組織「スルタン・ビン・アブドゥルアジーズ財団」を設立したり、教育・医療・科学分野への事業助成を続けるなど、活動は幅広い。

スルタン皇太子は日本滞在中、天皇陛下と会見するほか、小泉純一郎首相とも会談し、日・サ両国関係の深化に向け、意見交換する。

皇太子殿下来日にあたって

サウジアラビアのスルタン・ビン・アブドゥルアジーズ・アール・サウド皇太子殿下副首相兼国防航空相兼軍監察長官兼務が4月5日にご来日し、7日までご滞在されます。歴史的なご訪問であり、誠に喜ばしい限りであります。

スルタン殿下が皇太子に就任して以来、初の日本公式訪問です。殿下は運輸相として1961年に初来日され、それが、サウジアラビア王室からの初の訪日でした。この訪問により、サウジアラビアと日本の王室・皇室間の友好関係の歴史のページが開かれました。

スルタン皇太子殿下の訪日は、サウジアラビアと日本の戦略的パートナーシップの構築に向け、新たな章を開くものと確信しております。



サウジアラビア駐日特命全權大使
ファイサル ハサン トラッド氏

サウジアラビア大使館 TEL:03-3589-5241 <http://saudiembassy.or.jp>

住友化学は、スルタン・サウジアラビア王国皇太子殿下のご来日を心より歓迎いたします。

サウジアラビアの合弁事業がスタート

世界最大規模の石油精製・石油化学プラント



3月19日、合弁会社ペトロ・ラービグの起工式に参加した米倉弘昌社長(左)、ヌアイム石油鉱物資源相(中)、ジュマ・アラムコ社長(右)



住友化学は、サウジアラビアの国営石油会社サウジ・アラムコと折半出資で合弁会社ラービグ・リファイニング・アンド・ペトロケミカル・カンパニー(ペトロ・ラービグ)を設立。サウジアラビアの紅海沿岸の都市ラービグで、世界最大規模の石油精製と石油化学の統合コンビナート計画(ラービグ計画)を推進しています。

ペトロ・ラービグに、サウジ・アラムコが所有する日量40万バレルの原油処理能力を持つ製油所を移管。新たに、重油からガソリンを生産する設備、天然ガスなどを原料に石油化学製品の基礎原料となるエチレンや各種合成樹脂を製造するプラント群を建設。総投資額は98億米ドル。2008年後半の完成・操業を予定しています。

住友化学は、ラービグ計画により、国際的な競争力を持つ原料を安定的に確保することで、自社の事業の飛躍的な強化を図るとともに、現地の雇用拡大や産業構造の多様化を通じて、サウジアラビア経済の持続的な成長に貢献してまいりたいと思います。

さらに、この合弁事業が、国交樹立50周年を迎えたサウジアラビアと日本の友好関係のさらなる発展の一助となることを強く願っています。



世界最大規模となる統合コンビナートの建設が始まったラービグの製油所

技術と英知で未来を開く 人と社会と地球のために



<http://www.sumitomo-chem.co.jp/> 東京本社 TEL.03-5543-5500